



つるがや たより

第1号

発行日平成20年9月1日
群馬県伊勢崎市境百々421
医療法人鶴谷会鶴谷病院
広報委員会

広報誌 発刊の挨拶

このたび当院では、いろいろな医療情報や病院のイベントをお知らせするために、広報誌を年4回程度発行することにいたしました。

たびかさなる医療保険、介護保険の改正でわが国の医療環境が大きく変化しています。また、新型インフルエンザ対策など新しい医療体制、医療技術も必要になっています。皆さんにお役に立つような医療・介護についての情報をわかりやすくご理解いただけるように、また、患者さまと病院をつなぐいろいろな企画やイベントをこの広報誌をとおしてお伝えしたいと考えております。

患者さまやご家族の方に喜んでいただけるような広報誌にすべく、皆様のご意見もおよせいただければ幸いです。

医療法人鶴谷会 鶴谷病院
院長 鶴谷 嘉武

乳癌について

平成20年4月1日より当院にて勤務することになった木下照彦です。

専門は外科で、主に乳腺疾患、消化器疾患の診療に携わっております。

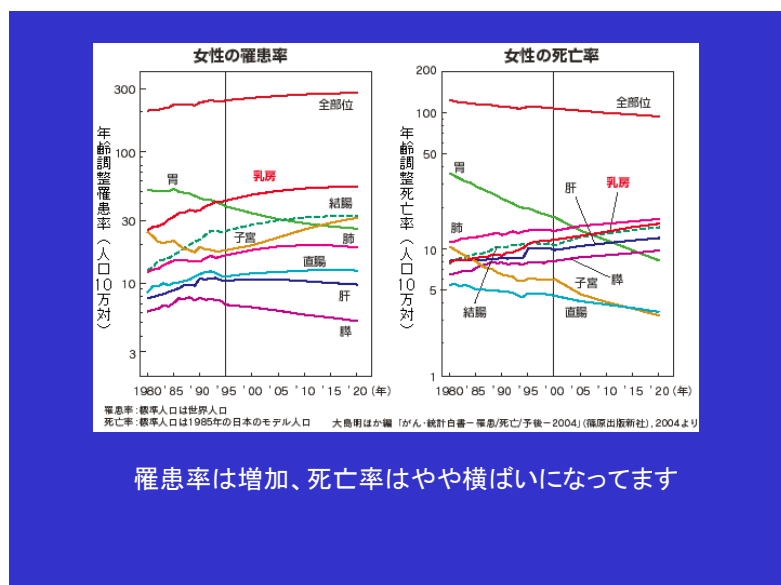
以前、平成10年6月より平成18年3月まで当院に勤務しており、その後、平成18年4月より平成20年3月まで2年間群馬県立がんセンター乳腺科にて乳癌の診療、研究をしていました。



乳癌は、体表の臓器であり、また近年、罹患率、死亡率とも増加しているため、他の臓器の癌に比べ臨床試験も進んでおり、新しい診断法、治療法（手術、薬物療法、放射線療法など）が増えてきました。乳癌は早期に発見すれば、治る確率が高い病気です。「怖いから」、「自分とは関係ないから」といって目をそらさず、正しい知識を得、検診を受けたり、医療機関を受診したほうが良いと思います。

疫学：乳癌は1970年代以降増加の一途をたどっており、日本では年間約4万人の女

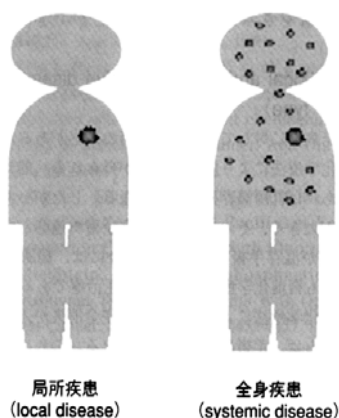
性が乳癌にかかり、日本人女性の20～25人に1人が一生のうちに乳癌にかかるといわれています。平均年齢は約50歳といわれていますが、20歳代、30歳代の乳癌患者さんも増えてきています（欧米では7～8人に1人がかかるといわれています）。マンモグラフィ検診の普及により非触知乳癌（しこりを形成する前の乳癌）も増加しています。



乳癌の症状：乳癌の自覚症状は、乳房のしこりが最も多く、他には乳頭異常分泌（血性）があります。自覚症状がない場合も（検診でひっかかった）15～20%程見られます。乳房の痛みで受診する方も多いですが、乳癌による乳房の痛みは、かなり進行した癌か、特殊な乳癌のみで、乳癌の初発症状で痛みが出ることはほとんどありません。ただし乳房痛の患者さんの検査をして偶然、乳癌が見つかることもあります。

乳癌の診断：乳癌の診断は、まずマンモグラフィ、乳房超音波検査（エコー）を行い、乳癌を疑う病変があった場合、その病変部に針を刺して組織を取ります。その組織を病理の先生に見てもらいがん細胞があれば乳癌と診断します。針を刺して組織をとる方法は、しこりがわかる場合はエコーでみながら針を刺します。しこりがなくマンモグラフィで悪性を疑う石灰化のみの場合は、マンモトームという特殊な器械を使います（当院にはないので、群馬県立がんセンター、または伊勢崎市民病院に依頼）。

全身の精査：乳癌はしこりを形成した時点で局所の病気ではなく、全身の病気と考えられています。したがって全身の他の部位に転移していないかどうかを調べます。転移しやすい臓器は、骨、肺、肝臓、脳の順に多いといわれています。



乳癌の治療の目的：乳癌の治療は、初期治療と、転移・再発の治療で目的が異なります。転移のない乳癌の初期治療の目的は治癒を目指すことであり、転移のある乳癌、再発乳癌の治療目的はQOL（生活の質）の改善と症状緩和、延命です。転移・再発乳癌は現在の医学では治癒は難しいとされています。ただししっかりした治療を行えば、QOLを保ちながら数年以上健在な方も時々見られます。

乳癌の治療：乳癌の治療は大きく分けて局所治療と全身治療があります。局所治療とは手術と放射線治療です。手術は以前と比べ温存療法をはじめ縮小傾向にあります。全身治療は薬物による治療で、化学療法（抗がん剤）、内分泌療法、抗体療法などがあり、それぞれの症例に応じ最善と思われる治療を行います。

乳癌は癌のなかでは進行も遅く、早期診断・早期治療により治癒する可能性の高い癌です。乳癌検診を受け、自覚症状があるときは恥ずかしがらず医療機関を受診するようにしましょう。

MR I 導入・運用開始

今年7月1日より、MR I 装置が導入・運用開始となりました。今まで患者さまにはMR I での検査が必要な場合に、他院に出向いてでの検査で手間が掛かっていましたが、当院で検査が出来ることになりました。

導入されたMR I 装置です→



境ふるさと祭り

今年も8月2日（土）、3日（日）境ふるさと祭りが開催されました。毎年恒例で初日には病院・鶴寿園の前に神輿や屋台が集まって大変なにぎわいになります。職員は「かき氷」・「やきそば」・「ビール」・「ジュース」・「おつまみ」などお祭りの定番を用意して、みなさんを歓迎します。

鶴寿園や病院に入院中・入所中の皆様も沢山見学に集います。ご家族の方と一緒に楽しめる方もいらっしゃいます。この様子は今年も群馬テレビで放映されました。

- | | |
|-------|-------------|
| 11:20 | 百々子供みこし |
| 11:25 | 百々東子供みこし |
| 13:15 | 萩原子供みこし |
| 14:20 | 上町・仲町・諏訪町屋台 |
| 16:40 | オール百々 八木節 |

鶴谷会が現在のように参加をはじめたのは平成6年から今年で15回になりました。最初の年は神輿も職員でかつぎましたが、あまりに大変でしたので次の年からは現在のような参加になりました。

地域の方々と入院入所中の皆様、そして従業員が夏のさなかでの楽しい恒例行事として定着してきました。また、来年も元気で明るく参加できることを楽しみにしています。



全国に人工呼吸器を配備 新型インフル対策で厚労省

厚生労働省は27日、新型インフルエンザが大流行した場合、不足する恐れが強いと指摘されている人工呼吸器を、全国の医療機関に約3600台新たに配備することを決めた。

保健所の管轄区域とほぼ等しい、全国に約360ある「2次医療圏」ごとに10台ずつ整備する方針で、来年度予算の概算要求に約20億円を盛り込む。また、医療機関が現在保有している人工呼吸器のうち、どれだけが新型流行時に使えるかの台数調査も進めている。

現在、アジアなどにまん延し、新型への変異が最も心配されている鳥インフルエンザ（H5N1型）に感染・発症した患者には、呼吸困難など重症の呼吸器症状がみられることが多い。

重症患者の治療には人工呼吸器が不可欠だが、患者が大量に発生した場合、入院患者を受け入れる医療機関では人工呼吸器が足りなくなることが確実視されている。

2008/08/27 06:31 【共同通信】

編集後記

やっとの思いで広報誌の発行にこぎつけました、どれだけの事を、病院をご利用いただける皆さんに伝えられるか判りませんが、この広報誌を長く続けられるようスタッフ一同がんばりたいと思います。今回ちょっとした手違いで、「境ふるさと祭り」で病院前での写真をメモリーから消してしまうハプニングがありましたが、幸いに数枚残っていました、数少ない写真から一番と思われる物を採用しました。（竹野）

医療法人鶴谷会の理念

- ①人間愛を持って患者さんに接し、心のこもった医療・介護サービスにつくすこと。
- ②日進月歩する医療・福祉に対して前向きに取り組み、“チームワーク”を大切にすること。

これらをふまえ、質の高い医療・介護サービスを地域の方々に提供する。